2021年9月6日
東京都社会福祉審議会・勉強会（オンライン）
「福祉分野における新型コロナウイルス感染症の影響と今後の課題」

# コロナ後の家族
## ー戦後家族モデルの行き詰まりー

中央大学・文学部・教授
東京都社会福祉審議会・委員
山田昌弘

## 0. 自己紹介

山田昌弘　　1957年生まれ、63歳

家族社会学・研究者、東京大学大学院修了、東京学芸大学教授を経て、2008年より中央大学文学部教授

パラサイトシングル、格差社会、婚活　の名付け親

研究領域　家族（結婚、恋愛）　ジェンダー、若者などを　「お金」と「愛情」の領域から研究している

著書に『日本は少子化対策になぜ失敗したのか』（光文社新書）『新型格差社会』（朝日新書）『少子社会日本』（岩波新書）『希望格差社会』（ちくま文庫）など

公職　現在、内閣府・男女共同参画会議民間議員、東京都社会福祉審議会委員
内閣府・人生100年時代の結婚と家族を考える委員会・座長

学会　　現在、関東社会学会会長、比較家族史学会副会長など

読売新聞人生案内回答者（2008年－現在）

# ０.コロナ禍の家族への影響

■コロナ禍が日本家族に与えた影響

日本の戦後型家族の行き詰まりを白日のもとに晒した

戦後型家族　－「夫は主に仕事で、妻は主に家事で、豊かな生活を築く」

＊　行き詰まり

①　少子化（未婚化）　戦後型家族からはみ出る人の増大

コロナ禍は少子化を加速させた　→　独身者の増大

②　夫婦関係の二極化　　愛情のない夫婦の増大

コロナ禍は潜在していた夫婦の愛情問題を顕在化させた

# ０.コロナ禍の家族への影響

■　少子化の加速　2020年の動向（人口動態調査）
（赤字は速報値からの推定、確定値は９月に発表）

＊　結婚は大きく減少　２０１９年は令和婚（5月1日）、１並び婚（11月11日）で増

2020年の結婚数大幅減少（2並び婚ー令和2年2月２日は多かったが）

2020年　約52万組　2019年　59万9007組　2018年　58万6481万組

＊　出生数も減少　　コロナの影響が出るのは今年の1月以降

史上最低を更新しそう（コロナ以前の妊娠にもかかわらず）

2020年　約84万人　2019年　86万5239人　2018年　91万8400人

＊　2021年に入ってからも減少傾向は加速（人口動態速報）

2021年１-６月　出生　40万5029人　　2020年　43万0709人

婚姻　26万5350組　　2020年　27万0129組

# ０.コロナ禍の家族への影響

## ■　出生数の大幅な減少のマクロ的影響

今後、保育園児、児童、学生数が急速に減少する。

表　近年の出生数の推移（四捨五入）

| 年 | １９８０ | １９８５ | １９９０ | １９９５ | ２０００ |
|---|---|---|---|---|---|
| 出生数 | １５８万 | １４３万 | １２２万 | １１９万 | １１９万 |

| 年 | ２００５ | ２０１０ | ２０１５ | ２０２０ | （２０２１） |
|---|---|---|---|---|---|
| 出生数 | １０６万 | １０７万 | １０１万 | ８４万（推定） | ８０万（推測） |

20年前の三分の二しか子どもがいない

5年後には、保育所待機児童問題は解消し、幼稚園が倒産する（地方）

15年後には、私立高校の経営危機が生じる（地方で深刻）

20年後には、私立大学、専門学校の経営危機が生じる（高卒80万人）

（2019年度で、4年制大学入学者63万人、短大約5万人、高専在学者約1万人、専門学校入学者約28万人）

# １.行き詰まる日本家族

■21世紀の日本家族

- 今の３０代（2050年の６０代）以下の若者

生涯未婚確率２５％、無子率４０％　離婚経験率３５％

＊　今の若者結婚して離婚しない人　二人に一人

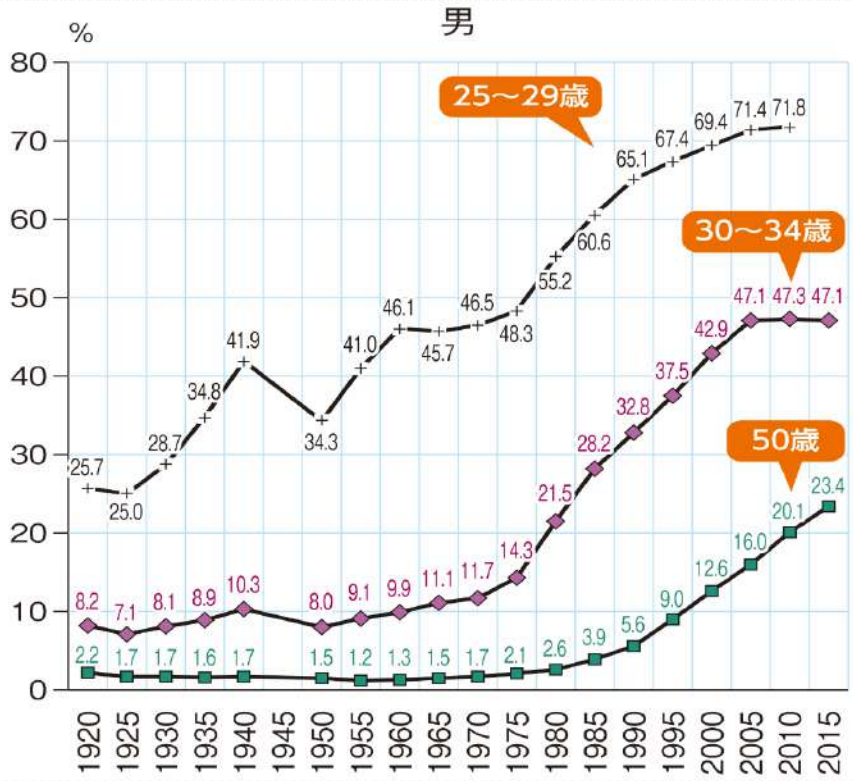
更に、子どもをもって亡くなる人４０％

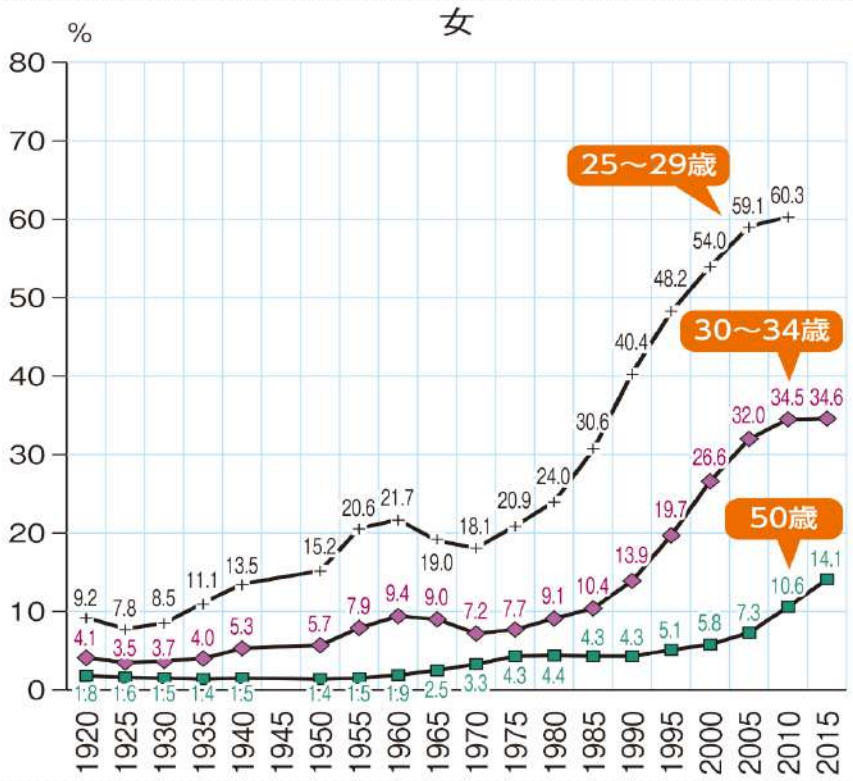
＊「孤立」して高齢を迎える人　4割になる

cf.　今の７０代（未婚率３％、離婚経験率１０％程度）

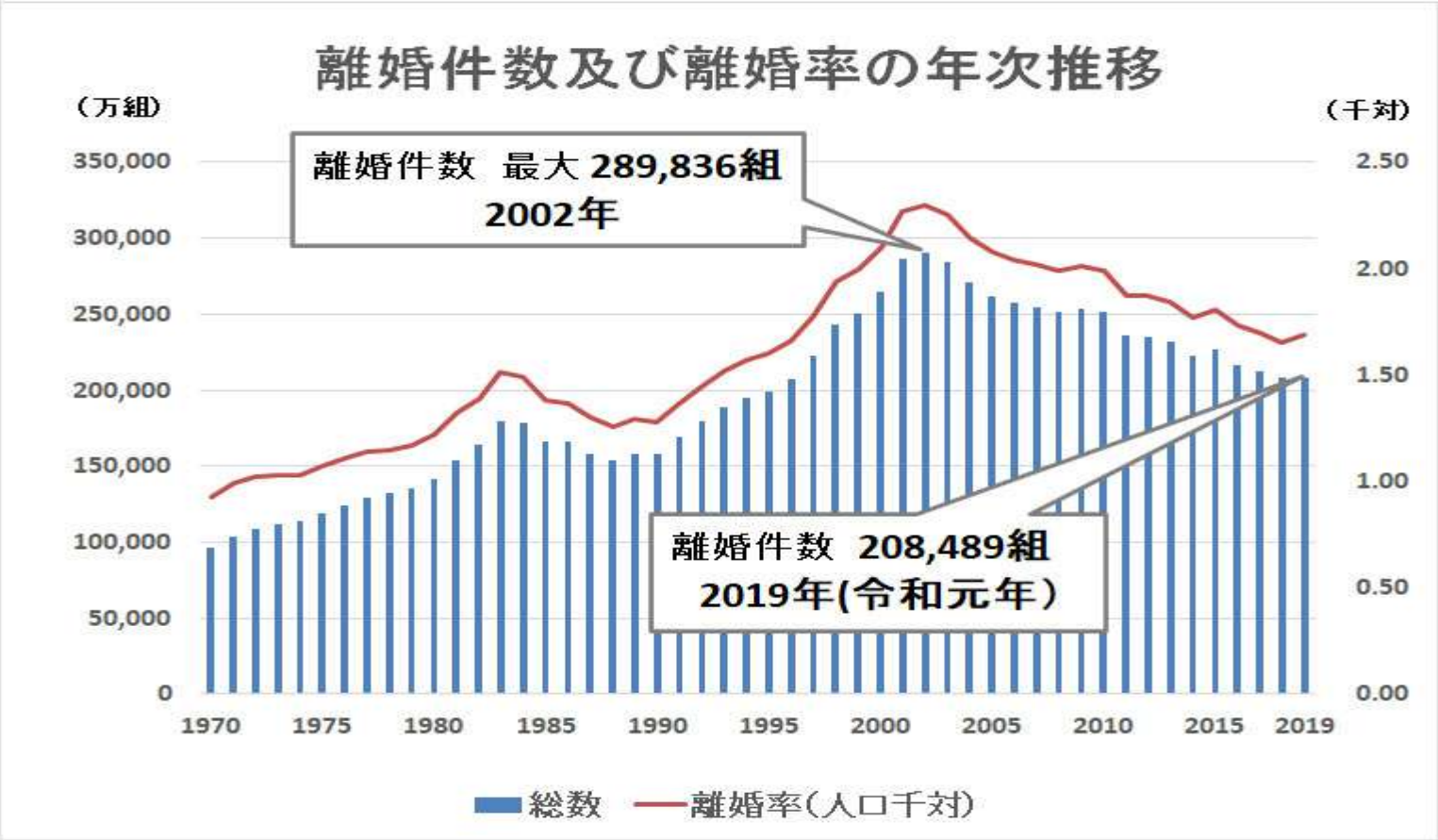
# 1．行き詰まる日本家族

- 未婚率の推移



# 1. 行き詰まる日本家族


離婚件数及び離婚率の年次推移
（万組）
（千対）
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
2.50
2.00
1.50
1.00
0.50
0.00
1970
1975
1980
1985
1990
1995
2000
2005
2010
2015
2019
離婚件数　最大 289,836組
2002年
離婚件数　208,489組
2019年(令和元年）
総数
離婚率(人口千対)

# １.行き詰まる日本家族

■21世紀の日本家族

「幸福な家庭はどれも似たものだが、不幸な家庭はいずれもそれぞれに不幸なものである」

（トルストイ『アンナ・カレーニナ』中村融･訳）

- 典型的な家族（戦後型家族）を作り維持できる人と、　そうでない人への分裂、後者の増大
- 典型的な家族生活の外形　変わっていない

  形成・維持不可能な人が増加し、事前に予測不可能（リスク化、不確実化）
- 典型的な家族の中身も行き詰まっている

  典型的な家族を作り、維持するために愛情を犠牲に

# １.行き詰まる日本家族

■格差を伴い、多様化、リスク化、不確実化している

- 共時的多様化　様々な形態の家族が並存

  例、30代　一人暮らし、親同居未婚、夫婦世帯、親同居ひとり親、ひとり親

- 通時的多様化　様々な形態の家族を経験

  例　上記の世帯を一人で次々と経験することも

# １.行き詰まる日本家族

■　戦後型家族システムの行き詰まり示している

＊　経済的行き詰まり

経済的に戦後家族が形成できない

未婚の増大、離婚の増大、→　独身者の増大

＊　心理的行き詰まり

戦後家族を作ることが幸せを保証しない

データ婚活、恋愛の衰退、家庭内離婚、セックスレス、ーー

# １.行き詰まる日本家族

■　社会保障制度の行き詰まりも示している。
日本の社会保障制度　－　戦後型家族を前提
＊ライフコース上の前提
　　みんなが結婚して、離婚せず、子がいる
＊雇用上の前提
　　家族でフルタイムで働く人がいる
　　フルタイムで働けば家族を扶養し中流生活が送れる

＊　家族からはみ出した人　　社会保障制度の想定外
結婚しない人、離婚した人、子どもがいない人
家族にフルタイムで働く人がいない人
フルタイムで働いても収入が十分でない人
　彼らに

# 2．戦後型家族の形成
# （以下大部分報告省略赤字のみ報告）

■　近代社会の家族の機能

家族　「自分を必要とし、大切にする存在」

- 生活保障（経済、ケア）の単位

家族は生活を共同する

＊　家族がいれば、人並みの生活が送れる

＊　家族がいればいざとなったときに助けてくれる

- アイデンティティの保証（愛情の場）

＊　家族がいれば寂しくない、居場所がある

アイデンティティ　＝　居場所

# 2．戦後型家族の形成

■戦後型家族（高度成長期家族）

- 「夫は主に仕事、妻は主に家事（ケア）で、豊かな生活をめざす」

＊　豊かな生活の中身

住宅、家電新製品、子の教育、家族レジャー　＊

性別役割分業が原則　　家計ー「夫」に依存

# 2．戦後型家族の形成

■戦後型家族を形成維持できる「条件」１　経済

- ライフコース予測可能（社会的に、個人的に）
  ほとんどの人が結婚し、離婚せず、子どもを育てた
- 男性（夫）の収入の安定、上昇の見通し
  ⇒　前提
  ほとんどすべての男性が、定職に就いていた
  （収入が上がる正社員、保護された自営業者）

# 2.　戦後型家族の形成

■戦後型家族を形成維持できる「条件」２　愛情

- 愛情の役割分業

お金を稼いで生活を支えることが「夫ー父の愛情」
家事、ケアをすることが「妻ー母の愛情」
勉強してよい学校に行くことが「子どもの愛情」

＊　コミュニケーションがなくても愛情があると思い込むことができた（一生）
夫婦が互いに不可欠な存在と信じることができた

# 2．戦後型家族の形成

■自動的に豊かな家族が形成

・将来のライフコース「予測可能」

結婚容易、離婚少ない⇒　ライフコース計画可能

・家族形態と夫の収入が「予測可能」

夫（自営業含む）の収入が安定しており、上がり続ける

生活設計可能

（結婚生活、住宅取得、子どもの学費、家族レジャー）

# ２．戦後型家族の形成

■低成長期（オイルショック後）の変容

・若年男性の収入の伸びが鈍る
（１９７３－１９９５）

・晩婚化　男性の収入が高くなるまで待つ
　　（パラサイト・シングルの出現と増大）

・既婚女性のパート労働者化　収入の伸びを補う
　　（正社員の既婚女性　ほとんど増えない）

・「豊かな生活をめざす性役割分業の家族」
　の基本は崩さず、微修正の時代

# 若年未婚者の推移

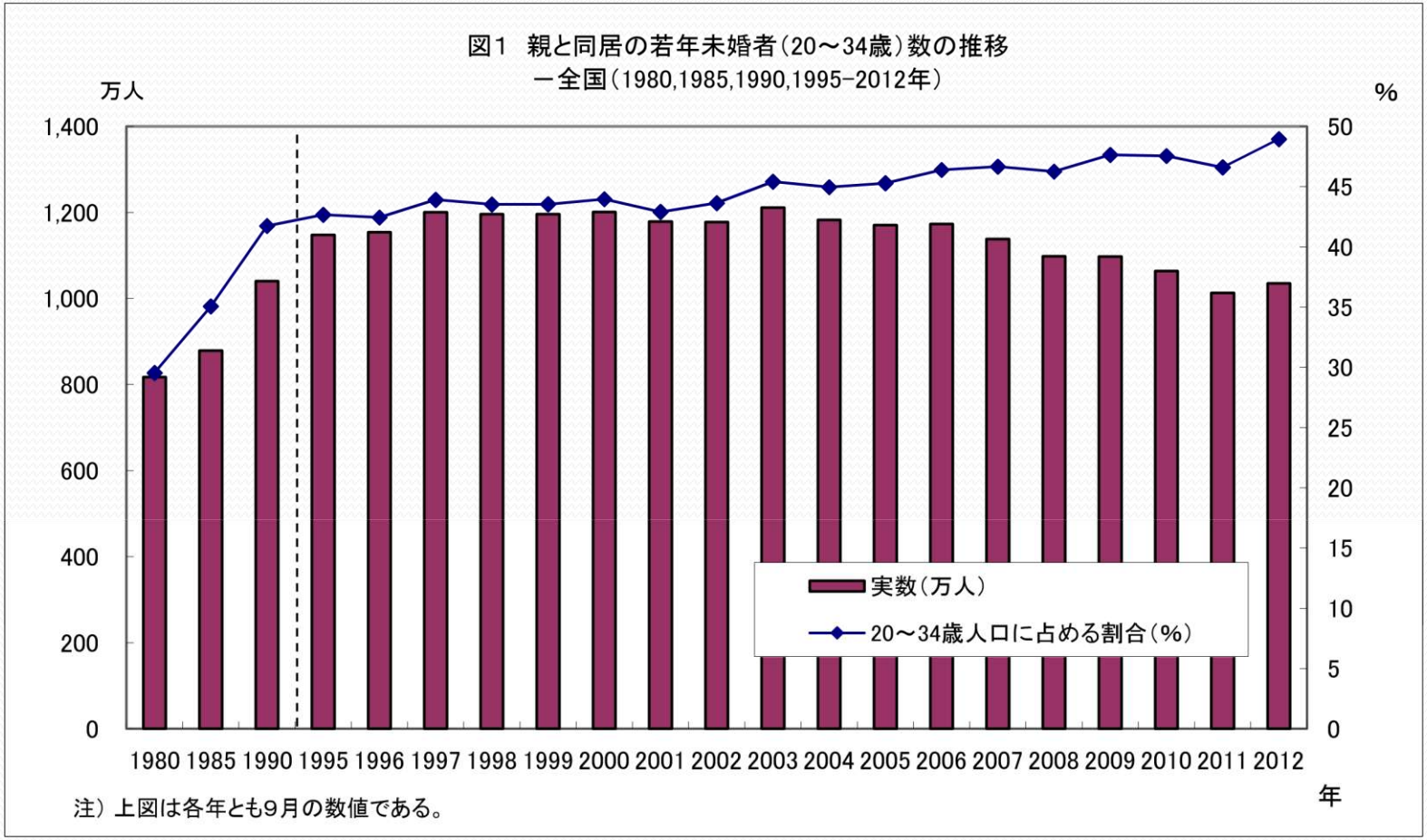


図1　親と同居の若年未婚者（20～34歳）数の推移
ー全国（1980,1985,1990,1995-2012年）
万人
%
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
1980 1985 1990 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012
年
実数（万人）
20～34歳人口に占める割合（%）
注）上図は各年とも9月の数値である。

# ３．格差社会と家族のリスク化（一部省略　赤字のみ報告）

■ニューエコノミーの進展（１９９５－）

・豊かな社会（ＩＴ産業、サービス化、文化産業、グローバル化）

・職の二極化（安定職と、不安定な職に分裂）

・男性収入の二極化と予測不可能性

　若年の非正規雇用率の高まり

　硬直的な労働慣行（新卒一括、終身雇用）

・自営業の衰退　←　規制緩和

# 3．格差社会と家族のリスク化

■未婚化、離婚の増大

（人口減少、未婚社会、無縁社会）

＊　原因：「一人の収入では妻子の豊かな生活を支える見通しが立たない」男性が増える

・固定的役割分担意識の残存（男性が主に稼ぐ）

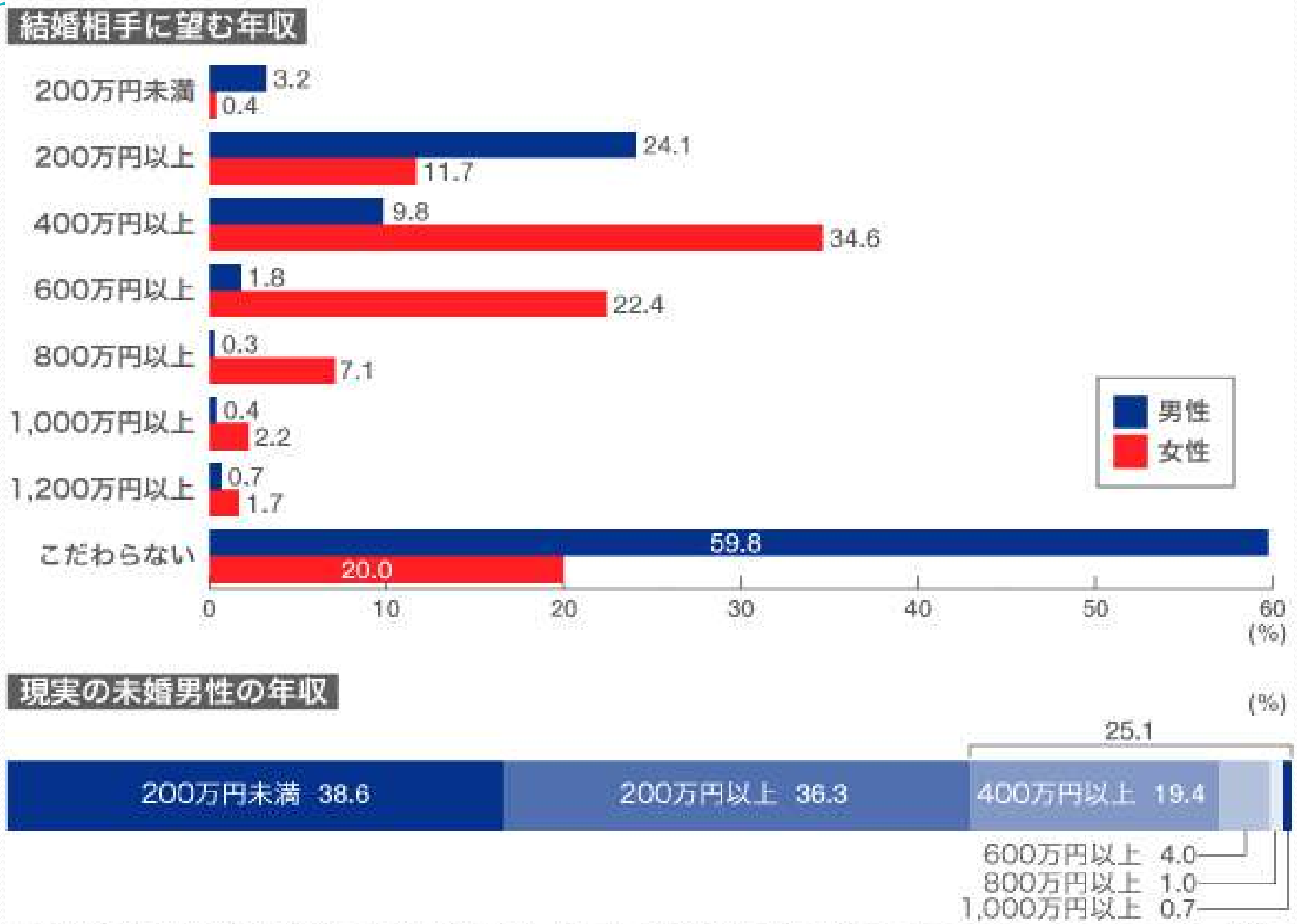
・未婚者は親同居（パラサイト）が一般的

理想の相手が来るまで待てる

（親が生活と心理的保証をする）

・夫が経済破綻　離婚した方がまし

# 結婚相手に望む年収と現実の未婚男性の年収の比較




出所：明治安田生活福祉研究所・「生活福祉研究」号。データは2009年の「結婚に関する調査」（全国ネット20～39歳、4120名の未婚者が回答）

# 3．格差社会と家族のリスク化

■コロナ禍が少子化を促進させる

コロナ禍　健康不安と　収入減少、不安定化（特に女性）

短期的

＊　感染、病院不足リスクから妊娠、出産を控える

長期的

＊　結婚して子どもを育てて「中流生活」を維持することができる男性、更に減少

＊　不安定収入女性　婚活に走るも相手が不足

＊　生活「リスク」から、女性は更に相手を選別

（非正規でも共働きならなんとかなる　－　とはいかないことがコロナで明らかに）

# 3．格差社会と家族のリスク化

■ライフコースの不確実化

- 結婚したくてもできない

いつするか分からない

- 結婚していたくてもできない

いつまでしていられるか分からない

# 3．格差社会と家族のリスク化

■若者世代における家族形成の分解

経済力、魅力による階層分化が現在進行中

①典型的家族を作り維持する層

量的に減少する

②典型的以上を作れる層　そもそも少数、増えない

夫婦フルタイム共働き

高収入男性ーセレブ主婦

③典型的家族からはみ出る層

不安定既婚子持ち層（できちゃった結婚ー約2割）

親同居未婚層（将来の貧困予備軍）

親にパラサイトできない低収入未婚、離別層

＊何かがきっかけで生活が破綻する

（夫の失業、収入低下、自営業破綻、長期的病気）

# ３．格差社会と家族のリスク化

## ■　典型的な家族からはみ出る層の増大

社会は想定していない

①　正社員になれない男性、自営業で生活できない男性の存在を想定していない

　特段の事情なくフルタイムいても家族を養う収入が得られない男性

②　正社員や安定した自営業者と結婚できない女性

③　低収入で子どもを育てる夫婦　←　出来ちゃった結婚

# ３．格差社会と家族のリスク化

## ■　愛情の役割分業の行き詰まり

＊性別役割分業家族－お互いが必要であると思い込むことができた

夫婦のコミュニケーション不要

＊豊かな社会、共働き化、子育て後の長期化

コミュニケーションによる夫婦関係の二極化

コミュニケーションが活発な夫婦

コミュニケーションなき夫婦の出現

（夫婦外の親密・性関係、セックスレス）

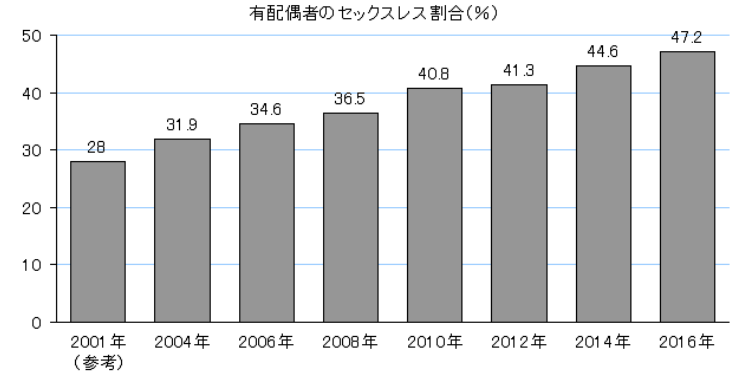
# セックスレスの進展

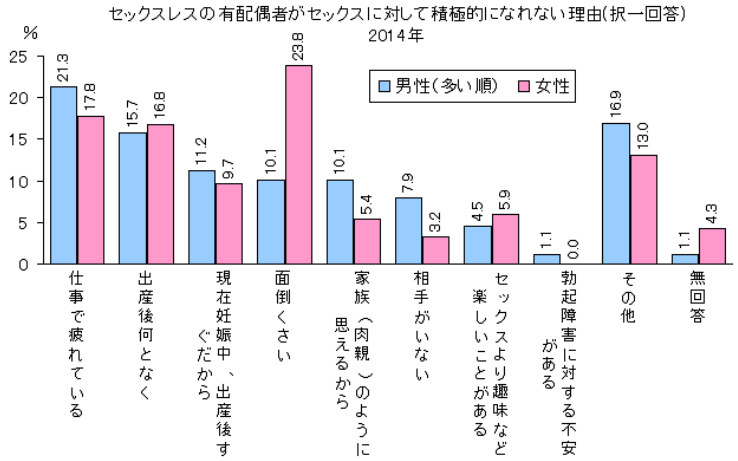
- 2000年以降のセックスレスの増大
  2020年の調査結果で50%を越える

（日本家族計画協会　16-49歳対象）

→　出産適齢期の夫婦の約半数がセックスレス

セックスレス夫婦の動向




（注）セックスレス割合は「この1カ月間は、セックス（性交渉）をしなかった」の回答率。2001年は朝日新聞インターネット調査「夫婦1000人に聞く」、2004～2016年は第2～8回「男女の生活と意識に関する調査」による。2016年の「第8回男女の生活と意識に関する調査」は全国の16～49歳男女3000人を対象に訪問留置方式で実施された（回収率46.8%）。

（資料）（社）日本家族計画協会

# 3．格差社会と家族のリスク化

■　コロナ禍が夫婦関係の二極化を加速する

＊コロナ禍　リモートワーク、外出制限などにより、夫婦で一緒にいる時間が長くなる

→そもそも趣味が同じなど仲がよい夫婦にとってはプラス

＊夫婦外での親密性の充足機会が減少する

（キャバクラ等に行けなくなった夫、ママ友と交際できなくなる妻　等）

→　親密性の不満が暴力等にもつながる

# ３．格差社会と家族のリスク化

■　コロナ禍が夫婦関係の二極化を加速する

ネット調査より（山田の科研費）

表　　コロナ禍による夫婦仲の変化（20-59歳）

「あなたの配偶者の仲はまわりの夫婦と比べてどうですか」「1年前はどうでしたか」の回答（ケース数）

| | 2021年2月現在 | 2020年2月の回想 |
|---|---|---|
| たいへん仲がよい | ２７９ | ２７３ |
| 仲がよい | ４２９ | ４１１ |
| 普通 | ５２０ | ５３９ |
| あまり仲がよくない | ７５ | ８１ |
| 仲がよくない | ６８ | ６３ |
| 配偶者はいなかった | | ４ |

# ４．家族の将来
# （ここも大部分スキップします。）

■　若者　将来生活が予測不可能に

例：親にとっても　未婚の子　結婚するのか、いつ結婚するのか、離婚して戻るか分からない

例：夫（男性）の収入　安定して上昇するとは限らない

例：離婚するか、いつするか分からない

# 4．家族の将来

■　格差を伴って世代進行

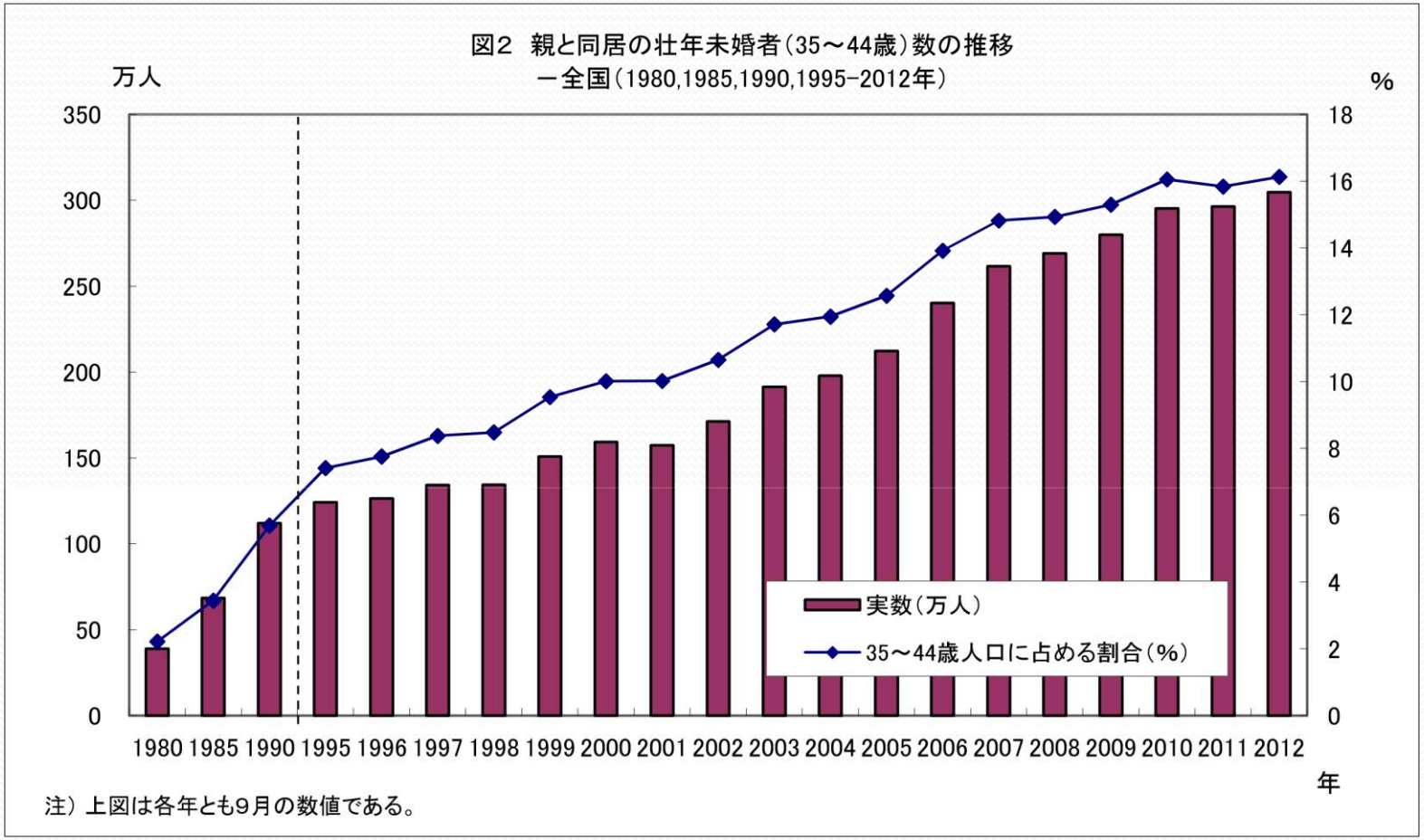
現在　　格差があるのは若年者

今後　　中年から高齢に格差が及ぶ

非正規雇用者が若者から中高年に進行

パラサイトシングルの高齢化

# 壮年親同居未婚者の増大



# ４．家族の将来

## ■　壮年親同居未婚者の現在

2015年　35－44歳の親同居未婚者　308万人

失業率　10％、　無職率10％

非正規率高い　2-3割　（非正規の男性結婚相手として選ばれにくい、女性　非正規多い）

＊　親の年金で暮らしている　　将来見通しなし

＊　高齢者虐待の温床
世話できない同居の中年息子

# 4. 家族の将来

## ■　生涯未婚者（＋離別者）の未来

家族が存在せずに、高齢に突入する人の増大

＊　親の年金で暮らしている親同居未婚者

親が亡くなるとまともな生活できない

→　親の死を隠す事件

＊　高齢者犯罪の増加

（家族がいない-抑止効果なし）

＊　本人たちの世話（見守り）を誰がするか？

例　－　献体希望者の増加

# 4．家族の将来

■　保守化する若者たち　ここ10年

内側に入れば　－　典型的家族を形成できればとりあえず安心

内側からこぼれれば　－　典型的家族を作れなければ不安定（ワーキングプア予備軍）

恋愛不況　　パートナー形成　減少

結婚できる相手でないと恋愛しない、無駄、面倒

就活、婚活の興隆

内側に入ろうと必死に努力する

専業主婦志向が若者で増大　　－　正社員と早く結婚するための努力婚活となってしまっている。

# 恋愛の衰退1交際相手がいる未婚者率の低下

- 表　独身者で交際相手をもつ率の変化　18歳-34歳
- （国立社会保障・人口問題研究所　出生力調査より　数字%）

| 男性 | 1992 | 1997 | 2002 | 2005 | 2010 | 2015 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 恋人あり（含む婚約者） | 26.3 | 26.2 | 25.1 | 27.2 | 24.6 | 21.3 |
| 交際中異性の友人有り | 19.2 | 15.3 | 11.3 | 14.0 | 9.4 | 5.9 |
| 女性 | | | | | | |
| 恋人あり（含む婚約者） | 35.5 | 35.4 | 37.0 | 36.7 | 34.0 | 30.2 |
| 交際中の異性の友人有り | 19.5 | 15.9 | 12.4 | 12.9 | 11.9 | 7.7 |

# 恋愛の衰退2　性体験がない未婚者割合の増加

| | 1992 | 1997 | 2002 | 2005 | 2010 | 2015 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **男性** | | | | | | |
| 18-19（年齢） | 70.9 | 64.9 | 64.2 | 60.7 | 68.5 | 72.8 |
| 20-24 | 43.0 | 42.5 | 35.8 | 33.6 | 40.5 | 47.0 |
| **女性** | | | | | | |
| 18-19 | 77.3 | 68.3 | 62.9 | 62.5 | 68.1 | 74.5 |
| 20-24 | 53.0 | 42.6 | 38.3 | 36.3 | 40.1 | 46.5 |

(出生動向基本調査　国立社会保障人口問題研究所　2015年より)

# 4．家族の将来

■　バーチャルな親密関係への逃避

典型的家族（戦後型家族）を形成、維持できない人

典型的家族を形成していてもコミュニケーションがない夫婦

＊　バーチャルな親密性に逃避

家族ペット、アイドル、二次元、

＊　家族外の人に親密性を求める、購入する

キャバクラ、ホストクラブ、性風俗産業、不倫

## 結婚、恋人外の親密関係の広がり

次のような関係を恋愛対象にしていますか

Aペット　B アイドルやタレント、スポーツ選手など　C アニメ、ゲーム等のキャラクターなど　D キャバクラ・メイドカフェ・ホストクラブなど　E性的サービス産業

| | A | B | C | D | E | (1つ以上) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 30代前半未婚男性 | 3.3 | 12.5 | 13.8 | 9.8 | 13.7 | ( 30.8) |
| 既婚男性 | 4.1 | 11.8 | 5.8 | 13.1 | 14.6 | ( 28.4) |
| 未婚女性 | 7.2 | 16.1 | 12.0 | 0.8 | 0.8 | (27.1) |
| 既婚女性 | 2.2 | 13.9 | 7.4 | 1.4 | 1.1 | (19.9) |

**行き場を失った親密欲求、性欲求はバーチャル、買うものに**

表　明治安田生命生活福祉研究所2017年実施「男女交際・結婚に関する意識調査」
ネットモニター（18-34歳　表示は30代前半のみ、サンプル10304）

# ４．家族の将来

## ■ アンダークラス化の兆候

まともな仕事からも、まともな結婚からも排除される若者

パラサイトできないで、低収入で自立せざるをえない若者の出現

親が安定的でない状況で育った若者

（貧困の連鎖）

職で自立できず、親にも頼れず、（女性－定職に就いた相手と結婚できず）

# ４．家族の将来

■階級社会化？無縁社会化？　というディストピア

今後、典型的家族（戦後型家族）を形成、維持できなかった中高年の増大

- 日本社会の前提　　家族主義

  家族が存在することが前提

  家族の中で生活できる収入を稼げる人がいることが前提

- 家族がいない中高年　　孤立化

  （孤独死　現在　年３万人　ほぼ未婚者率に相当）

  ５０年後、年５０万人規模で孤立した高齢者が亡くなる

# ５．新しい家族の可能性
# （時間がなくなっていると思うので省略）

■ディストピアを防ぐには

## 戦後家族モデルからの脱却が必要

家族　「自分を必要とし、大切にする存在」
　　生活上の頼りであり、心理的な頼りである

現実には、戦後家族モデルを作れない人が増えている
　戦後家族を作っても、愛情を感じられない人が増えている

- 家族を形成しやすくする　　多様な家族モデルを
- 家族が不安定でも、いなくても、孤立せず、
  貧困に陥らないような生活のあり方

# 5．新しい家族の可能性

- 家族を形成しやすくする
  →　　家族の多様化を進める

「夫が主に稼ぎ、妻が主に家事」というモデルを離れる

同性結婚、一人親、再婚家族、シニア結婚、養子
共働き、専業主夫家族、きょうだい世帯－－－

＊　様々な形の信頼関係がある「家族」を認め、サポート
社会保障による下支え、労働慣行の是正
結婚支援（中高年の結婚支援）養子等の法整備

# 5．新しい家族の可能性

- 家族がいなくても大丈夫にする　　多様な生活形態
→　家族でなくても生活でき、居場所がある、そして、親密性が満足できる関係

シェアハウス、グループホーム、友人共同体
バーチャル（擬似）家族　ペット、AIロボット、レンタルフレンド

＊　経済的自立や社会保障の下支え、法的整備

ご清聴ありがとうございました